

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・トータスジュニア下野		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 20日		R8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R8年 2月 20日		R8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	身体づくりの基礎となるコーディネーション運動をメインとした独自の運動療育プログラムにより、脳機能の活性化を促し、お子様の成長を多角的な支援。	「定位・変換・連結・反応・識別・リズム・バランス」の7つのコーディネーション能力の要素を取り入れた運動指導案の作成。 運動内容を細分化することで運動の苦手なお子様も「できた」と成功体験を得られる。	外部の運動専門家との定期的な連携による内容の見直し。 スタッフの専門的知識向上を目的とした研修機会の拡充。 お子様の発達段階や特性に応じたプログラムの個別調整。 保護者の方へのフィードバックを通じた家庭との連携強化。
2	お子様の習熟度や特性に応じた教材を用いて、「読み」「書き」「計算」の基礎学力の向上を目指した療育。	小さな成功体験を積み重ねる。難易度を細かく段階的に設定し、「少し頑張ればできる」レベルの課題に取り組む。 準会場として漢字検定を開催し成果の確認を行う。	学習教材のさらなる充実。市販の教材だけでなく、お子様の特性に合わせたオリジナル教材の開発・作成。
3	土曜日、長期休暇中での課外学習、季節のイベント、調理活動等のイベント。	外出や課外学習で社会性を育む機会をつくる。 他児との交流を増やしコミュニケーション能力を育む。	お子様が主体となる活動づくり。イベントの内容をスタッフが決めるだけでなく、お子様自身がやりたいことを提案・計画に参加できる仕組みを取り入れる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が集まる機会が少ないこと。	療育参観を兼ねてママパパ会の開催。保護者参加型療育説明会の開催。	伝える頻度・タイミングを見直し、年1回の一斉案内ではなく、季節ごと・訓練の前後・入所時など、定期的かつ節目に合わせて繰り返し発信する。
2	安全計画など緊急時の対応、避難訓練などの取り組みについてのお知らせが不十分である。	防災害・緊急時の対応については、マニュアルの常時掲示や掲示板での案内、支援記録への訓練記載、メール・SNSでの情報発信など多様な手段を講じているものの、十分な周知には至っていない。	伝える頻度・タイミングを見直し、年1回の一斉案内ではなく、季節ごと・訓練の前後・入所時など、定期的かつ節目に合わせて繰り返し発信する。
3	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもたちとの共同活動の機会が限られており、今後の取り組みが必要な課題。	放課後児童クラブや児童館との関係に限られている。	関係機関との連携を深める。 放課後児童クラブや児童館の担当者と定期的に情報交換する場を設ける。